

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心掛けていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

大学受験の直前期に志望校の変更を希望する生徒に対して どのような声掛けや指導をしていますか。

▶志望校を変えず努力し続けるよう促す

第一志望(群)の変更はしないように事前に言うておく。それでも申し出た際には理由を確認し、成績が伸びていないという理由であれば、夢・希望にチャレンジしなければ必ず後悔する、と指導する。9月に行う志望確認の際、11月に再度確認する旨を予告し、第二志望群と第三志望群までを検討させ、12月には保護者を交えて最終決定をさせる。

基本的に第一志望は絶対に変えさせない。自分のやりたいことができる、一番入りたい大学が第一志望なのだから、この点がぶれると併願校もコロコロ変わってしまう。不動の第一志望と、そこから志望の幅を広げた大学を考えさせている。国公立大学の場合はセンター試験の結果で受験校を判断させる。

センター試験前に、過去問や対策問題で点数が伸びず、弱気になって志望校を変更したいと申し出る者には、これまでの努力や思いを、たったこの数カ月のスランプのために無にしてしまうのか、変更は自己採点からでも遅くはないと激励する。また、各教科のどの部分に不安を感じているのかを面談で聞き出すことにより、焦っているばかりではなく、心の整理をさせることを心掛けている。

本校では行事が一段落するのが9月中旬であり、実質、秋から受験勉強がスタートするため、成績向上が数値に表れるのは模擬試験の終わった入試直前期になる。相談に来る生徒には「現役生は最後まで伸び続けるから、自分を信じ、最後まで高みをめざして突き進むように」と励ましのアドバイスを送り、最終的にはほとんどの生徒が第一志望の大学を受験している。

▶成績などを加味しながら志望校を再考する

センター試験後については、センター・リサーチの結果を基に本人および保護者の希望と照らして志望校変更を受け入れている。ただ、こちら側からは勧めず、本人の申し出を最優先し、納得した状態で志望校の変更を進めていく。基本的にセンター・リサーチの合否予想が厳しくても志望校を変えずに出願させることが多い。納得した上で受験しないとモチベーションも上がらないし実力も発揮できない。

センター試験プレテスト後は、他の大学の願書も取り寄せるように言いますが、受験校の変更はセンター試験を受けてからでも遅くないと伝えます。センター試験後は、センター・リサーチを参考にバンザイシステムなどを活用して一緒に悩みます。進路指導の先生を含めた学年団の話し合いで方向を決めていきます。

センター試験プレテストの結果を見て、志望校を変更したいという生徒に対して、同じ学部・学科系列ならば、偏差値を気にしすぎないようにさせています。他の系統の学部が変わるようならおおむね反対します。

センター試験の後、第一志望校にあまりにも手が届きそうにもない生徒たちには再度意志を確認します。志望を変更した際は、必ず保護者を交えて三者面談するように心掛けています。なお、全員の生徒についてどの大学の願書を取り寄せてあるかを事前に調査しておき、他の生徒の志望が変わった場合には、出願しない大学の願書を提供してもらうこともあります。

▶その他

成績の伸び悩みが原因の生徒には、センター試験の結果を見てから判断するように、再考を促します。進路希望が変わり、真剣に考えている生徒には、新たな可能性について相談のっています。

センター試験後は、保護者を交えて、データを示しながら冷静に自分の判断や見通しを淡々と伝える。志望校を変更するか否かの決定はあくまで本人(家庭)が行うので、その判断のためのデータ・資料をできるだけ客観的に幅広く提供することを心掛ける。

自分が通うことをイメージできる大学なら変更しても大丈夫だと伝えます。センター試験で思ったほど点数が取れなかった生徒には、浪人するか現役で進学するかを選択させ、具体的な計画を立てた上で対応していきます。

大学卒業後の進路において必要な資格を取得するための進学の場合、本人の意思が確固なものであれば、どの大学でも自分が頑張ればよいという話をする。